

「第53回カラーフェア」写真コンテスト結果

審査：清水哲朗

(敬称略)

最優秀賞

「青春の思い出」村上忠司

逆光に半シルエットで浮かぶ二人、押し寄せる波、船。シンプルな組み合わせながら見るものを一瞬にして惹き込む情景描写力に圧倒されました。スマホでのセルフィーも実に現代的です。超光沢クリスタルペーパーでの着地が作品の魅力をさらに引き立てました。

優秀賞

「雨の赤坂見附」藤澤仁

首都高、青山通り、外堀通りが多層的に交差する赤坂見附。計算された美しい構図に長秒露光で行き交う車の光跡を描くことで都会の喧騒を見事に表現しています。全体的にしっとりとし、路面が輝く雨の夜を選ぶあたり、かなりの実力者と感じました。

朝日新聞社賞

「お父さんとゴール」中村昭夫

家族が手を繋いでゴールする姿はもはやお約束のシーンになりつつありますが、何度見ても微笑ましいものです。主役はもちろんお父さんですが、兄妹それぞれの表情や手の握り方にお父さんとの関係性や年齢による受け止め方も垣間見えて想像が膨らみました。

全日本写真連盟賞

「虹の願い」穂苅環

撮影会での一コマですが、舞台とモデルのイメージがここまで決まると撮りごたえあったでしょうね。画面構成力も無駄がなく、完成度の高い作品に仕上がっています。国内にとどまらず海外のフォトコンテストに挑戦しても面白いかもしれません。

東京都本部長賞

「赤の構成」野田光治

ファッション誌の広告に使われそうな最高にクールでおしゃれな作品です。舞台そのものも魅力的ですが、緊張感あるタテ構図で画面上部に大胆に空間を作ったことで下部の印象の重みが増しました。いつまでも眺めていられます。

フォトアサヒ賞

「麗か」玉村心優（みゆう）

物憂げな表情と散らばせた花びらで年齢特有の感情を表現したと思いきや、タイトルは希望に満ちています。印象とは面白いものでイメージしていたものと違うものを出された時には戸惑いつつも記憶に残るものです。本作もギャップにやられました。

富士フィルム賞

「青の衝撃・愛の告白」 小林優太

シャッタータイミングの良さが究極のシンプル構図を成立させました。主題をポツンと見せる画面構成はおしゃれでタイトルもぶっ飛んでいて良いですね。階調豊かなフィルムならではの優しく味わいのあるプリントも作品イメージにマッチしています。

東京五輪記念賞

「オリパラ讃歌」 立川明

水平垂直を意識した正確無比な構図ですが、背景に見えるはタクシーの側面。だとすると信号待ちでの一瞬の撮影？世間を賑わせた外国人に人気だったカート隊列も見なくなって久しいですが「いろいろあったね」と語れる時代を切り取った1枚です。